



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)
ニューズレター (2018年度 No.3)
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆HC 賞授賞のご報告
- ◆HCG シンポジウム 2018 開催のご報告
- ◆2019 年総合大会開催のご案内
- ◆FIT2019(第 18 回情報科学フォーラム) 投稿のご案内
- ◆HC 特集号投稿のご案内
- ◆研究会活動紹介 (ADD 特別研究専門委員会)

HC 賞授賞のご報告

庶務幹事
馬田一郎 (KDDI 総合研究所)

平成 30 年度ヒューマンコミュニケーション(HC)賞授賞式が、平成 30 年 12 月 13 日、伊勢シティホテル(HCG シンポジウム 2018 懇親会会場)にて開催され、受賞者に賞状と副賞のクリスタル盾が贈呈されました。HC 賞は、過去 1 年間に開催されたヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)の第一種研究会(HCS, HIP, MVE, WIT)における技術研究報告を対象とし、各研究専門委員会に設置された選考委員会の厳正なる審査の下に選出されます。受賞件数は発表 25 件につき 1 件、以降 50 件ごとに 1 件を基準としており、HCG が授与する賞の中で最も権威の高い賞となります。

本年度の受賞は次の 6 件の発表です。

1. 「ラグビー高校日本代表チームにおける集団語と選手の言語化に関する研究」(HCS2017-64)
2. 「"OK, Google!" の言語学 ～ 言語使用の三層モデルからみたウェイクワードの特殊性 ～」(HCS2018-68)
3. 「視覚刺激の輝度変化と瞳孔変動の対応に基づいた視線による情報入力手法」(HIP2017-80)
4. 「可視光通信プロジェクタの高画質化・高効率化を実現する符号化方式」(MVE2017-62)
5. 「視覚障がい教育の授業応用を目指した遠隔力覚誘導提示システムの開発と評価」(WIT2017-41)
6. 「PC ノートテイカーによる誤入力文章の自動修正システム」(WIT2017-73)

いずれもコミュニケーションにおける課題に取り組んだ魅力的な研究であり、研究視点、手法、結果の新規性、独自性および有効性、各分野への発展性や応用可能性などの観点から高く評価されました。

受賞一覧は下記 URL よりご覧いただけます。各発表の技術研究報告もぜひあわせてご覧ください。

<https://www.hcg-ieice.org/2018/12/17/平成30年度ヒューマンコミュニケーション賞/>

HCG シンポジウム 2018 開催のご報告

企画幹事
吉田悠 (NEC)

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) 主催の HCG シンポジウム 2018 は、三重県のシンフォニアテクノロジー響ホール伊勢にて 2018 年 12 月 12 日 (水) ~14 日 (金) の日程で開催されました。20 セッションで 122 件の発表件数があり、参加者数は 248 名と、過去最高の参加者数を記録する盛会となりました。

2013 年から始まった、全ての口頭発表者にインタラクティブセッションの発表枠が付与される仕組みは今年度も引き続き行われ、非常に活発な議論が行われました。ポスターによる発表に加えて、さまざまなデモを含んだ発表が増加しており、研究者と議論しながらその場で体験とフィードバックを行う、文字通りインタラクティブなディスカッションが行えたことは大変有意義だったと思います。三日間のインタラクティブセッションのそれぞれに対して、参加者の投票により決定されるインタラクティブセッション賞 (最優秀、優秀、学生優秀) が贈られました。

同じく 2013 年より始まった特集テーマセッション (旧名称: オーガナイズドセッション) については、「産業 IoT/IoH と人間・知能機械協奏」「雰囲気工学」「ソーシャル・インタラクション」「ヒューマン情報処理の計測と制御」「ミック工学」の 5 テーマが企画されました。テーマを絞って異なる分野の研究者が議論を行うこの企画も、HCG シンポジウムの欠かせない企画の一つとなってきました。優秀な発表に対しては、各セッションで特集テーマセッション賞が贈られました。

さらに今年度は特別セッション (旧名称: 企画セッション) として「スマートシェアードスペースの実現に向けた取り組み」「複数体ロボットと人とのコミュニケーション」「高精度手話データベース構築と手話研究への展開」をテーマに、各領域の最先端で活躍している 3 名から招待講演を頂き、期待や課題について参加者と議論しました。

大会二日目には、HC 賞の授賞式とチュートリアル講演が行われました。HC 賞は最近 1 年間の間に HCG の第一種研究会に直接申し込まれ、優秀であると評価された研究 6 件に贈られました。

チュートリアル講演では、専修大学の小杉考司教授をお迎えし、「心理学における新しい統計学との付き合い方」と題して講演が行われました。HCG の関連領域に興味・関心がある、工学系諸分野をバックグラウンドにもつ研究者、学生を対象に、近年議論が起こっている統計的仮説検定の考え方と問題点、その代替手法といわれるベイズ統計学の利点と本質について、俯瞰的かつ実践的なチュートリアルがあり、多くの参加者に好評を博しました。

次回の HCG シンポジウム 2019 は、2019 年 12 月 11 日（水）～ 13 日（金）の日程で、広島県広島市の広島県情報プラザにて行われる予定です。皆さまのご参加をお待ちしています。

2019 年総合大会開催のご案内

企画幹事
青木良輔（NTT）

2019 年電子情報通信学会総合大会の開催をお知らせいたします。今年は東京都新宿区にある早稲田大学西早稲田キャンパスにおいて開催されます。

会場：早稲田大学 西早稲田キャンパス
会期：2019 年 3 月 19 日（火）～2019 年 3 月 22 日（金）

最新情報につきましては下記をご覧ください。
HP：<https://www.ieice-taikai.jp/2019general/jpn/index.html>

総合大会は、5 ソサイエティと 1 グループが合同で開催する大会です。今年の総合大会では、プレナリーセッション（3 月 21 日午前）、特別記念講演や 51 もの企画講演セッションが行われます。企画講演セッションは、電子情報通信学会の研究専門委員会や企画戦略室などによって企画され、多岐にわたるトピックが提案されております。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

FIT2019(第 18 回情報科学フォーラム)投稿のご案内

企画幹事
青木良輔（NTT）

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）、情報・システムソサイエティ、及び情報処理学会が共催する FIT2019（第 18 回情報科学技術フォーラム）をご案内申し上げます。今回は、岡山大学津島キャンパス（岡山県岡山市）において開催されます。

会期：2019 年 9 月 3 日（火）～2019 年 9 月 5 日（木）
会場：岡山大学津島キャンパス

最新の情報は下記の URL をご参照ください。
HP：<http://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2019/index.html>

本フォーラムは、2 つの学会の大会の流れを汲むものですが、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流、などを実現してきております。皆様の研究成果発表の場として、論文発表を募集致しますので奮って御応募下さい。

=====

HC 特集号投稿のご案内

HC 特集号編集委員長
竹内勇剛（静岡大学）

一昨年より「ヒューマンコミュニケーション」論文特集号（以下「HC 特集号」と表す）は常設の編集委員会として運営しています。これからますます発展することが期待されるこの分野の論文発表に対して戦略的に取り組み、査読編集方針の継続的検討が重要と考えたことによります。これまで2回のHC 特集号をこの方針と体制のもとで発行してまいりました。その結果、年を重ねるごとに投稿される論文の質と査読・編集作業の質が向上してきた実感しています。そこで今年度も、以下の狙いの下で高いクオリティの論文誌となるように努めたいと思います。

- ①一貫性、継続性がある査読・編集が行われることによって、HC 特集号掲載論文の面白さ、クオリティ、革新性、影響力を向上させることを狙う。
- ②HCG として組織的に HC 特集号の査読プロセスに関わる者（特に若手研究者）の査読・編集スキル向上を図り、多くの者が査読プロセスに参画できる枠組みを構築する。
- ③HCG 外の研究者が HC 特集号の査読プロセスに参画することにより、より広いコミュニティの HCG への参画、融合を図り、HCG シンポジウムと併せて HCG を国内の HC 研究および関連研究の中核的コミュニティへと発展するための基盤とする。

編集委員会としては、今後以下のような活動を進めてまいります。

- (A) 編集委員会の定例開催
- (B) HC 特集号の企画と運営
- (C) 編集委員ならびに査読委員の候補者の情報管理
- (D) 編集委員ならびに査読委員（候補者も含む）向けチュートリアルの企画・実施
- (E) 論文執筆者向けチュートリアルの企画・実施

今後、取り組み状況につきましてはその都度ご報告する予定です。

～ ヒューマンコミュニケーション特集（和文論文誌 D）論文募集 ～

ヒューマンコミュニケーション特集号編集委員会

情報通信技術（ICT）の進歩によって私たちの生活の利便性は向上する一方で、生活の多様化・複雑化に伴いプラスの側面ばかりとは限りません。技術の進化は私たちの一人一人の生活を変えるとともに、他者や生活環境との関わり方をも変えていきつつあります。このような状況のもと人が技術・社会・環境と相互に豊かに関わるためのコミュニケーションの研究を横断的に議論する必要性から、ヒューマンコミュニケーショングループでは、平成16年から隔年で、平成25年からは毎年特集号を発行しています。日頃の研究成果を論文として広く情報発信する絶好の機会ですので、是非投稿を御検討ください。

なお本特集号では、ヒューマンコミュニケーション研究の成果をよりの確に伝えるために、画像・映像・音声等のデジタルデータを論文に添付することを可能にします。ただし、これらの追加データは査読プロセスにおける参考資料としての利用に留められ、採録に伴う公開は行いませんのでご注意ください。

1. 対象分野

ヒューマンコミュニケーション基礎
ヒューマン情報処理
メディアエクスペリエンス・バーチャル環境基礎
福祉情報工学
発達障害支援
ヒューマンプロンプト
食メディア
情報の認知と行動
ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション
魅力工学
リアルタイムコミュニケーション言語
その他ヒューマンコミュニケーションに関する全般、あるいは新領域

2. 論文の執筆と取扱い

通常の一般論文と同一とします。原則として、論文は刷り上がり 8 ページ以内、レターは刷り上がり 2 ページ以内とします。初期投稿時のレターの最大ページ数は 4 ページです。前記標準ページ数を超えると、掲載料が急に高くなりますのでご注意ください。詳細は和文論文誌投稿のしおりを御参照下さい。http://www.ieice.org/jpn/shiori/ess_mokuji.html

査読後の再提出期間（通常は 60 日間）が短縮される場合があること、また、採録論文数が多い場合には、一般論文として掲載される場合があることを予めご了承ください。

3. 投稿方法

投稿は、本会電子投稿システム

< https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_j.aspx >

を用いて「D 情報・システム：ヒューマンコミュニケーション特集号」へ電子投稿してください。電子投稿は PDF ファイルのみと致します。印刷物及びメールでの投稿は受け付けません。

また、WEB 上で著作権譲渡手続きを進めて下さい。投稿手続きについて御不明な点がございましたら、学会事務局までご連絡ください。

【学会事務局連絡先】

一般社団法人電子情報通信学会 編集出版部論文課

E-mail: wabun-d@ieice.org

4. デジタルデータについて

- ① デジタルデータは映像コンテンツや音声コンテンツに限ります。
- ② 論文本体は完結する首尾一貫した内容であることが求められ、添付されるデジタルデータはあくまでも査読プロセスにおける参考資料として利用されます。
- ③ たとえデジタルデータを添付した論文が採録されたとしても、論文誌やそれに準ずるメディアにはその論文のみが掲載され、添付されたデジタルデータは公開されません。
- ④ デジタルデータの容量上限については以下の通りとします。
 - (a) 1 ファイルあたりの上限は 50MB まで
 - (b) 1 論文あたりの上限（容量、ファイル数）は設けない
 - (c) 音声・動画は 5 分程度に収まる
- ⑤ 投稿論文へのデジタルデータの添付（提出）方法は、デジタルデータを収録したメディア（CD/DVD あるいは USB メモリ）を事務局まで投稿締切日までに送付してください。その際、必ず投稿した論文のタイトルおよび著者等を分かりやすく表記し、投稿論文とメディアとが正しく対応づくようにしてください。

5. 投稿締切と発行予定

投稿締切： 2019年4月26日（金） *厳守*

※ 採録通知後7営業日以内に早期公開となりますので、特許申請が関係する場合はご注意ください。

発行予定： 2020年3月号

6. 編集方針

編集方針は和文論文誌Dの編集方針と同一です。ヒューマンコミュニケーション分野は新しい研究領域であることから、この分野の研究を刺激し、発展させる先導的な研究成果をいち早く採録するために、新規性・有効性には特に重点を置いた査読編集方針を採ります。例えば、

(1) 研究における問題設定・着眼点・コンセプトの新しさ

(2) ヒューマンコミュニケーション分野を発展させる有用な知見の有無

(3) 既存の研究・製品・サービスに対する研究の有用性・新規性の位置付けの3点を新規性・有用性の評価において明確に判定します。信頼性に関しては、上記の主張点の妥当性を判断する根拠が客観的に示されていることを重視します。

7. 特集号編集委員会

委員長 竹内勇剛（静岡大学）

副委員長 小森政嗣（大阪電気通信大学）

幹事 近藤一晃（京都大学）、新井田統（KDDI総合研究所）、

坂本隆（産業技術総合研究所）

委員 安藤英由樹（大阪大学）、繁榊博昭（高知工科大学）、石井亮（NTT）、

寺田和憲（岐阜大学）、松田昌史（NTT）、草野孔希（NTT）、

宮崎慎也（中京大学）、塙大（名古屋市立大学）、

道満恵介（中京大学）、永井岳大（東京工業大学）、

酒向慎司（名古屋工業大学）、藤田和之（東北大学）、

塩野目剛亮（帝京大学）、馬田一郎（KDDI総合研究所）

8. 問い合わせ先

竹内勇剛（静岡大学）

E-mail takeuchi@inf.shizuoka.ac.jp

9. 付記

・締切日を厳守してください。

・論文採録の場合には掲載料の納入を発行より前に求められますので、あらかじめご了承ください。

・投稿に際して、著者のうち少なくとも1名は本会会員でなければなりません。ただし招待論文に関してはこの限りではありません。必要な投稿資格を満たしていない著者からの投稿論文については、受け付けないこととなりますのでご注意ください。

入会の案内はこちらをご覧ください。

<http://www.ieice.org/jpn/nyukai/index.html>

研究会活動紹介（ADD特別研究専門委員会）

ADD運営委員長
縄手雅彦（島根大）

発達障害支援研究会 (ADD: Assistance for Developmental Disorder) は 2008 年 12 月に第二種時限研究会として発足いたしました。ADD では、発達障がいに関係する問題の解決に技術的な支援を加味することで役立てることはできないかと考え、教育機関や医療機関などと電子情報技術に関わる研究者との交流を中心に活動を行っており、障がいの早期発見や適切な支援方法の確立、効果的な治療的介入の手法の検討などに取り組んでいます。

これまでの活動を通して行ってきた異業種の方々との交流から、ICT を用いた支援技術のいくつかが実現されるようになってきております。ボイスレコーダーとストップウォッチを手にして行っていた音読・音韻スクリーニング検査が PC を利用することで音声の自動記録と回答潜時や回答時間の自動計測を行える「ELC」というスマートな検査として図書文化社から紹介図書が出版され、また、鳥取市内の全小学校児童を対象に読みの困難の早期発見と治療的介入を行う「鳥取 RTI 方式」(現 T 式) で使用される iPad 用学習アプリも AppStore からダウンロードできるようになりました。これらは発足以来の現場の担当者と研究者の交流から生まれた成果と言えるでしょう。

ただ、多分野にわたる人々との共同作業ということで、必ずしも技術系の学会に所属しない教育や心理などの実務者との連携においては、学会をベースにした活動は当初の想定よりも難しいものであったことを 10 年目を迎えて痛感しております。今後 2 年以内に英語に関する学習困難の特徴をスクリーニングする検査の公開などを予定してはいるものの、基礎的な研究を進める体制は依然として十分とは言えません。HCG の各種事業に参加しておられる若い方々の協力がこれから一層必要になってくると思います。学会やシンポジウムでお会いした際にはぜひ ADD 関連のセッションを覗いていただき、議論をお願いしたいと切望しております。そのような交流を通して、今後もこの分野の発展に貢献していきたいと思っています。

研究会 WEB サイト : <http://add.shimane-u.ac.jp>

=====
ヒューマンコミュニケーションングループ研究会・関連行事について、
詳しくは HCG ホームページ <http://www.hcg-ieice.org/> をご覧ください。

□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□
電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーションングループ
Copyright (c) 2018 IEICE, All Rights Reserved.
□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□

☆e-mail による情報配信を必要としない方は、その旨 henkou@ieice.org まで
会員番号、氏名をご連絡ください。処理に 1 ヶ月程度かかりますので、入れ
違いに、再度情報配信された場合は、ご容赦ください。
(ご連絡いただいた場合は本会、登録ソサイエティ、グループ、支部、からの
全ての情報配信が止まりますので、情報配信を再度希望される時も、その旨、
henkou@ieice.org までご連絡下さい。)
ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice
(社) 電子情報通信学会 サービス事業部
TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659

